

令和5年度 明石小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立明石小学校

所在地：中央区明石町1-15

校長名：永井 勝巳

児童数：567人

学級数 22学級

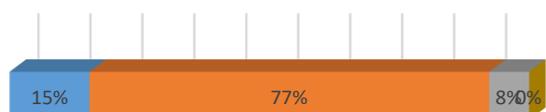
教員数32人

1 重点目標の達成状況及び、取組状況

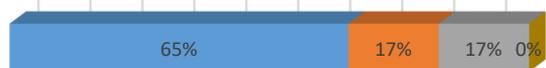
重点目標 1

重点項目 1 教員

①タブレットを効果的に活用した授業展開ができたか。
(毎日1回はタブレットを活用した授業、児童に毎日1回はタブレットを活用させた授業)



②朝学習・朝読書を時間通りに10分間計画的に実施できたか。



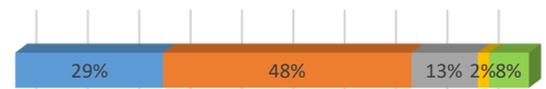
③ねらいとまとめの板書、ノート指導、自力解決、交流活動等を実践し、児童が「わかる、できる、楽しい」を実感できる授業展開ができたか。



■ A ■ B ■ C ■ D

重点項目 1 保護者

①学校は、タブレットを効果的に活用して基礎基本の定着を図っている。



②学校は、個の実態に応じて学習内容の基礎基本の定着を図っている。

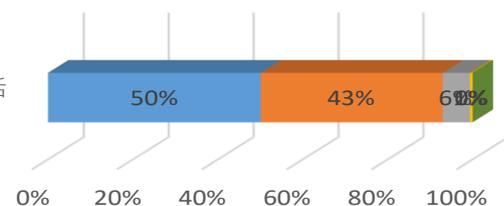


■ A ■ B ■ C ■ D ■ ※

③学校は、毎時間のねらいを明確にして、児童が「わかる・できる・楽しい」を実感できる授業を行っている。

重点項目 1 児童

学習の約束を守り、漢字や計算の学習・話し合い活動に取り組みましたか



■ A ■ B ■ C ■ D ■ ※

重点目標 1 <確かな学力の定着・向上>

①タブレットを効果的に活用した授業展開ができたか。(毎日1回はタブレットを活用した授業、児童に毎日1回はタブレットを活用させた授業)《教員》

①学校は、タブレットを効果的に活用して基礎基本の定着を図っている。

《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員92%と高い数値であったが、保護者77%とである。「改善を要する・緊急に改善を要する」に教員の8%、保護者の15%、「分からない」に保護者の8%が回答している。教員と保護者では認識の差がある。タブレットを利用した授業が日常となり、今年度も毎月、タブレットをどのように活用したかを報告、可視化し教員間で共有できるようにしてきた。タブレットの活用については昨年度に試行錯誤してきたが、やっと安定してきた部分もある一方、活用方法に偏りもあると感じている。より有効な使い方について模索し活用方法を広げられるよう研鑽し授業を行っていきたい。また、保護者との認識の差を縮めていくためにも、今まで以上に、効果的なタブレットの活用を実践していくとともに、ホームページ等を利用しながら、保護者にタブレットの児童の学習の様子について発信していく。

②朝学習・朝読書を時間通りに10分間計画的に実施できたか。《教員》

②学校は、個の実態に応じて学習内容の基礎基本の定着を図っている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員82%・保護者90%の高い数値であった。教員には、朝学習・朝読書について学年で計画的に進めること、また、時間を意識して取り組むことを徹底している。また、児童に対しても、時間の大切さを指導してきた。そのため、時間を意識し、朝学習や朝読書も落ち着いてに行うことが定着してきている。今後は、10分間の学習・読書を確実に実施するだけでなく、学習に取り組む環境や集中した活動になるよう質を向上させたい。また、算数では、習熟度別クラス編成や放課後補習教室(タヤけ教室)を計画的に行い、個に応じた学習を行い、基礎基本の定着を図っている。また、タブレットのドリルソフトを活用し、今後も継続し基礎基本を定着できるよう指導をしていく。

③ねらいとまとめの板書、ノート指導、自力解決、交流活動等を実践し、児童が「わかる、できる、楽しい」を実感できる授業展開ができたか。《教員》

③学校は、毎時間のねらいを明確にして、児童が「わかる・できる・楽しい」を実感できる授業を行っている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員・保護者ともに88%の高い数値であった。一方、「改善を要する・緊急に改善を要する」に教員の12%、保護者の5%、「分からない」に保護者の8%が回答している。グループでの話し合い、交流活動なども昨年度に比べ活発となってきている。交流活動では、対面やタブレットの活用を含めより充実した活動になるように解決方法を見出していく。タブレットの活用に伴い、板書やノート指導などデジタルとアナログを両立させていくことの課題もある。どちらの良さも活かせるような授業研究を行い、わかる授業、できる授業、楽しい授業をめざし、研鑽に努めていく。

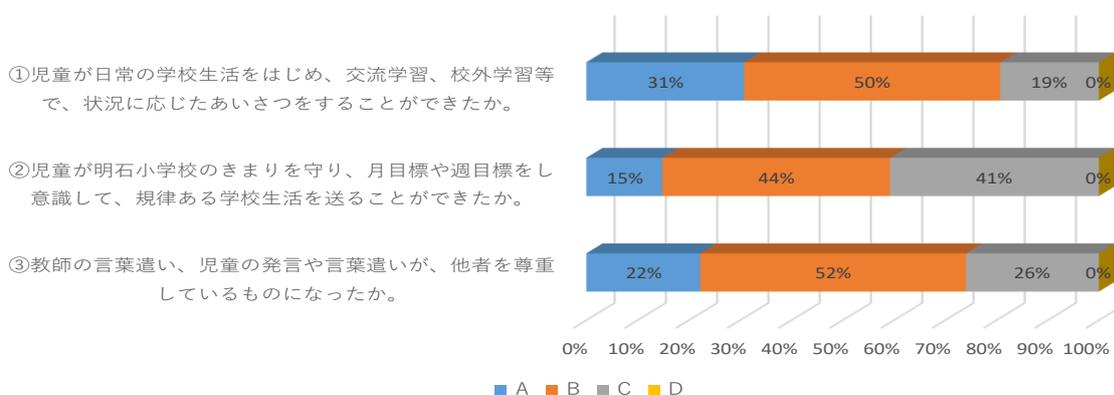
④学習の約束を守り、漢字や計算の学習・話し合い活動に取り組みましたか。

《児童》

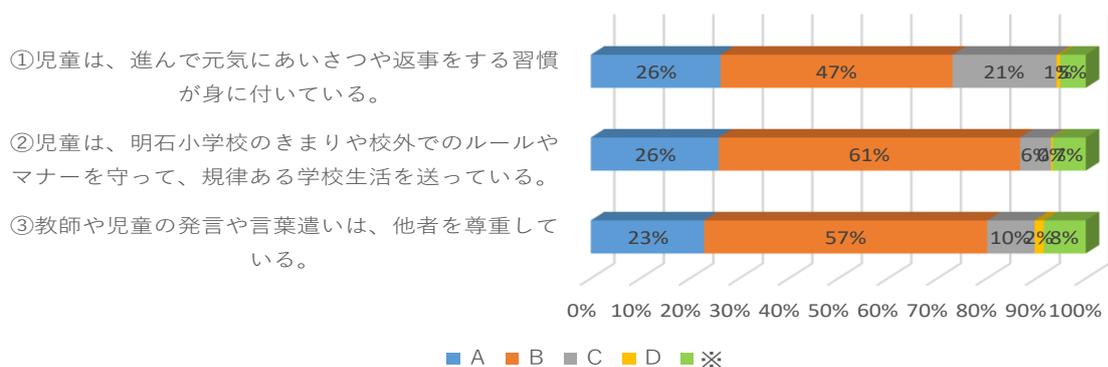
「よくできた・できた」が児童の93%の非常に高い数値であった。喜ばしいことであるが、この結果で満足するのではなく、継続できるよう指導を続けていく。また、「あまりできなかった・できなかった」児童も7%いる。誰一人取りこぼすことのないように、学習に積極的に取り組むことができている児童へのフォローをしっかりと行い100%を目指していく。そのためにも、授業での声かけ、日々の小テストや放課後の補習教室（夕やけ教室）の活用など、できないことをできないままにさせないように、細やかに粘り強く指導していく。

重点目標2

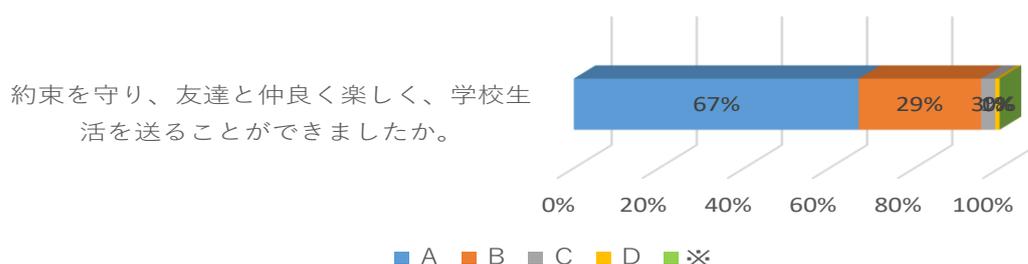
重点項目2 教員



重点項目2 保護者



重点項目2 児童



重点目標 2 <豊かな心の育成>

①児童が日常の学校生活をはじめ、交流学习、校外学習等で、状況に応じたあいさつをすることができたか。《教員》

①児童は、進んで元気にあいさつや返事をする習慣が身に付いている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 81%・保護者 73%とやや高い数値であった。毎朝行っている児童による「あいさつ運動」が定着したこと、また、日々の教師による挨拶への働きかけから挨拶を意識している児童は多い。しかし、教員と保護者の意識差が大きい。学校の外では、保護者や地域の方に積極的に挨拶をするに至っていないのだと推測される。学校全体で挨拶の意義を伝え、挨拶の習慣化に向けて粘り強く取り組んでいく必要がある。また、挨拶の習慣化には家庭の協力も欠かせない。学校内ではできている挨拶を実生活の中でも行えるように、挨拶の習慣化に向けて家庭への啓発も含め明石小全体で取り組んでいく。

②児童が明石小学校のきまりを守り、月目標や週目標を意識して、規律ある学校生活を送ることができたか。《教員》

②児童は、明石小学校のきまりや校外でのルールやマナーを守って、規律ある学校生活を送っている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が保護者 87%の高い数値であったが、教員 59%と課題が残る数値である。明石スタンダードと週目標を関連付けて児童に示したり、学期末に明石スタンダードの達成について児童が振り返ったりすることを継続しており、児童に自分の姿を振り返る指導を続けている。また、委員会活動などで、児童が学校のきまりや校外でのルールやマナーを守る啓発ポスターを作成し掲示するなど、児童発信の啓発活動も行われている。今後も、きまりを守ることの意味や良さについて具体的に指導すること、規律ある学校生活について全校朝会の講話や日々の生活・授業などで繰り返し指導をすることで、きまりを守って生活することの意味や意義を理解し行動できるようにしていく。

③教師の言葉遣い、児童の発言や言葉遣いが、他者を尊重しているものになったか。《教員》

③教師や児童の発言や言葉遣いは、他者を尊重している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 74%・保護者 88%のやや高い数値であった。日頃より、教員も児童も授業中の丁寧な言葉遣いを意識し指導してきた。日常の授業の様子から、意識の高まりが見られる。しかし、授業以外の休み時間などでは、言葉遣いが崩れることもある。場面に応じて言葉遣いを使い分けているとも考えられる。教員も同様であるという認識のもと、どのような場面でも言葉遣いを意識し教師が率先して模範を示すことで言語環境の整備につとめていく。

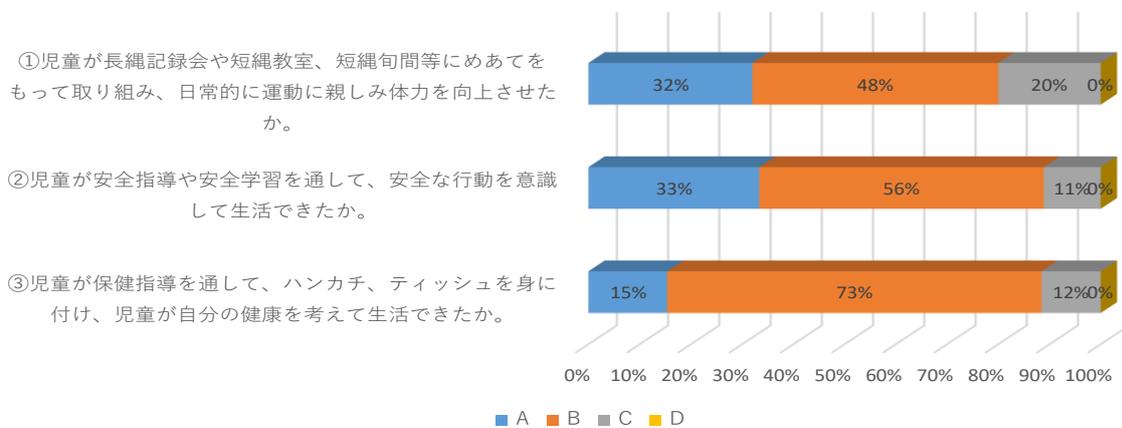
④約束を守り、友達と仲良く楽しく、学校生活を送ることができましたか。

《児童》

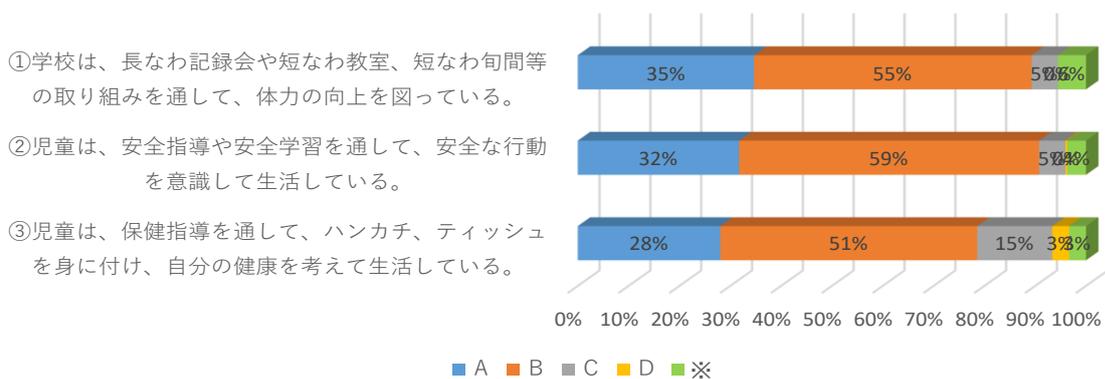
「よくできた・できた」が児童の96%の非常に高い数値であった。喜ばしいことであるが、この結果で満足するのではなく、継続できるよう指導を続けていく。また、6%の児童は「あまりできなかった・できなかった」と回答している楽しく学校生活を送れていない原因は何なのかをしっかりと把握し、細やかに対応することが必要である。そのためにも、今以上に児童理解を深め、100%の子どもたちが楽しいと感じることのできる学校を目指していく。

重点目標3

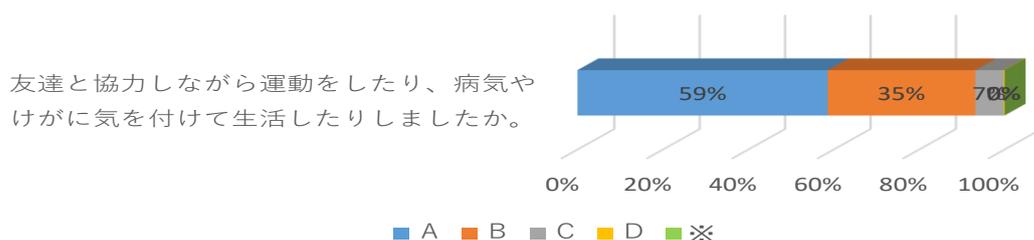
重点項目3 教員



重点項目3 保護者



重点項目3 児童



重点目標 3 <健康・安全教育の充実>

①児童が長縄記録会や短縄教室、短縄旬間等にめあてをもって取り組み、日常的に運動に親しみ体力を向上させたか。《教員》

①学校は、長なわ記録会や短なわ教室、短なわ旬間等の取り組みを通して、体力の向上を図っている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 80%・保護者 90%の高い数値であった。本校では、体育的活動の充実を目指し、長なわ旬間や短なわ旬間、短なわ教室を行なっている。特にその期間は縄跳びの関心が高く、休み時間には多くの子どもたちが縄跳びに取り組んでいる。体力向上旬間では授業中に持久走や持久力を高めるダンスを行うなど体力向上の取り組みも行った。期間外でも関心をもたせる工夫を行い日常的に運動で行うようにしていきたい。また、多くの子どもたちが、休み時間になると校庭や体育館にて鬼ごっこやドッジボールなどよく体を動かして元気に過ごしており、遊び場の確保に努め、体力向上につながっている。今後も、授業とともに学校生活の様々な場面で継続的に体力向上につながる活動を工夫し積極的に行っていく。

②児童が安全指導や安全学習を通して、安全な行動を意識して生活できたか。《教員》

②児童は、安全指導や安全学習を通して、安全な行動を意識して生活している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 89%・保護者 91%の高い数値であった。学校では、毎月、安全指導や避難訓練を確実に実施している。安全指導では、安全指導日の朝の10分間、安全に関する問題を中心に上げた動画や資料を活用し話合ったり、朝の会・帰りの会、長期休業日前において繰り返し安全について指導したりしている。また、避難訓練では、地震、火災、不審者侵入など、様々な状況を設定し訓練を行っている。警察や企業といった外部機関とも連携し交通安全教室やセーフティー教室を行った。今後も、災害・事故・事件はいつ起きるか分からないという意識を高め、常に安全な行動がとれるように考えさせ、安全に関する知識や行動の仕方など繰り返し指導し、学習・指導を通して安全に関する資質・能力の育成に努めていく。

③児童が保健指導を通して、ハンカチ、ティッシュを身に付け、児童が自分の健康を考えて生活できたか。《教員》

③児童は、保健指導を通して、ハンカチ、ティッシュを身に付け、自分の健康を考えて生活している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 88%・保護者 91%の高い数値であった。今年度はコロナ感染症が5類へ移行し、少しずつ感染症対策の緩和があったが、校内では基本的な感染症予防として手洗いをしっかりと指導してきた。児童も手洗いについてはよく実践できていたが、ハンカチの所持率は低いと感じている。ハンカチ・ティッシュがランドセルの中に入っていて、必要なときに使えないこともある。手を洗った後に清潔なハンカチで手を拭けるように、学校でも、児童にハンカチ、

ティッシュを身に付ける指導を続けていくとともに、家庭にも協力をお願いしていく。

④友達と協力しながら運動したり、病気やけがに気を付けて生活したりしましたか。《児童》

「よくできた・できた」が児童の94%の非常に高い数値であった。喜ばしいことである。体育や休み時間の様子を見ていても友達と仲良く過ごし元気に体を動かして活動している。感染症予防にも気を付けて生活できている。しかし、けが等での保健室利用は多く、実生活の中では様々なけがをしているのが現状である。安全な生活についての行動規範を促すポスター作成や掲示が児童発信で行われており、安全な生活についての意識は高まっている。落ち着いて生活を送ることの意識を高め、自らけがに気を付けて、健康に留意して生活できる児童を育成していく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

《家庭や地域との連携》

今年度はコロナ感染症が5類へと移行し、感染症対策が中心であった生活様式が緩和され、少しずつ家庭や地域に開かれた学校運営となった。体育学習発表会は5月の開催だったため、昨年度同様に学年別の参集となったが、3回実施した学校公開の中で2、3学期に行われた2回と展覧会は参集の制限をなくし地域の方への公開もできた。しかし、保護者や地域の方が来校をする機会は限られているので、学校や児童の様子を知ってもらうために、児童の学習の様子や生活がわかるような写真とともに学校からのホームページの発信を頻繁に行った。保護者アンケート「学校は行事や学校生活などを通して児童の学習の様子や生活が分かるようにしている（保護者）」の設問では、「よく当てはまる・あてはまる」の回答が94%と高かった。今後も、児童の学習の様子や生活が分かるように学校側から情報発信を積極的に行い、家庭や地域との連携を深めていく。

3 今後の改善方策

タブレットでの学校評価アンケートを実施が今年で3回目となった。アンケート回収率が47%と低いことは課題として受け止めている。アンケート回収率を上げるために、アンケート実施方法については再度検討をしていく。また、学校評価を教育活動に生かしていくためにも、保護者の方に学校評価アンケートの周知に努め協力いただけるようにしたい。今年度の明石小では「子どもがかがやき、保護者、地域、教職員がともに歩む学校」をめざし、教育活動を行ってきた。保護者や児童からも概ね高い評価であったが、重点目標の保護者回答で「分からない」の方が、平均すると8%となっている。Google Classroomや学校ホームページ等を活用し、学校の様子を積極的に発信に努めてきたが、さらに保護者の方に理解していただけるよう、教育活動の積極的な開放や情報発信に努めていく。